

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ケアビレッジ下田
(ユニット名)	さざなみ・磯の香
所在地 (県・市町村名)	静岡県下田市5丁目6-58
記入者名 (管理者)	増田 由紀
記入日	平成 19 年 4 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の利用者本位にそった理念を作りあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人一人に理念に対する理解を深め、共有できるよう会議等で議題にあげ、話し合いをしている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族にも、理解していただけるようホームの理念を、玄関先に提示している。また、ホームのパンフレットにも理念を載せて、配布している		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員や利用者に近隣に住んでいる方を紹介し、気軽に声を掛け合えるように努めている	○	立地条件上、近隣に民家が少ないため、隣近所との付き合いは少ないが、ホームでの行事を通して交流の場を増やして行きたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の活動に注目し、イベントや行事に積極的に参加し、ふれあいを深めている。また、地域で活動している高齢者ボランティアの受け入れも行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民が気軽に相談できるよう、市役所や近隣の介護関連業者にパンフレットを置かせてもらっている	○	職員間で、地域の高齢者の暮らしに役立つよう、話し合いの場を持っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は、全職員が常に目を通せるようにしており、それにより、職員一人ひとりが改善を意識するようにしている	○	職員会議で、外部評価を見直し改善していく体制をつくりたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容や今後の課題について、ホーム内で報告、検討しサービスの向上につなげている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は時間がゆるすかぎり、市役所へ出向き、話し合いの場を持っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族や本人より、権利擁護に関する問い合わせがあった時には、説明できる体制を整えている	○	管理者だけでなく、職員にも学ぶ機会を持つよう、努めていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する理解を深めるよう、職員教育を行い、防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は、ゆっくり時間をかけて説明をし、家族や本人が理解し納得していただけるように、努めている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、意見の交換を行い、その情報をもとに、解決策を話し合っている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回家族宛に、1ヶ月の利用者の様子を書いた手紙をだし、ホーム管理のおこづかい金の使用明細及び領収書を同封している。また体調急変時には、随時家族と連絡をとっている	○	職員の異動については、運営側より指示がないため報告等はしていない。今後ほ家族に対して報告していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの申し出は、すぐに話し合い解決しているが、外部に公表していない。	○	意見を反映できるよう、外部にも公表できるような場を設けていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営側の方針により、一部職員(ホーム長及び各リーダー)との話し合いしかできていない	○	ホーム全職員と運営側に間で、意見等を話し合う場を設け、小さな意見、提案も反映させていけるよう努めたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現時点で、職員不足のため、柔軟な対応ができる体制ではない	○	柔軟な対応ができるよう、職員の補充、勤務調整を見直していきたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営側は、職員の不足による、利用者への影響を懸念しており、利用者へのダメージを防ぐよう努力はしているが、馴染みの職員による支援が難しくなることもある。	○	利用者が馴染みの職員による関係をくずさぬよう、異動を最小限の抑え、ダメージを防ぎたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足の為、研修の通知が届いても、調整がつかず参加できないのが現状である	○ 今後は、ホーム外の研修だけでなく、ホーム内においても研修を受けられる機会を、積極的に設けていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学や入居相談などはあるが、それ以外の交流はほとんどない	○ 同業者の活動に目を向け、交流する機会を設けていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	環境作りに取り組んではいるものの、職員不足など、ストレスの軽減には至っていない	○ 運営側は、職員に対しての理解を深め、現状を把握した上で、環境作りに取り組んでほしい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		○ 運営側は、職員が意欲的かつ向上心を持って、働けるよう努めてほしい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに、本人との面会の機会を一度しか設けていない為、できる事が限られてしまう	○ 本人との距離を縮めるためにも、事前に本人の思いを理解する機会を増やしていきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記に同じ	○ 上記に同じ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に他のサービス利用についての説明はしていない	○	相談時には、本人に合ったサービスを見極め、他のサービスの必要性があれば、家族に紹介するようにしたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後しばらくの間は、利用者に馴染んでいただくため、その方に合ったペースでサービスを進めるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どんな介護の場面においても、職員は常に利用者と一緒に考え、支え合いながら、毎日を過ごし喜怒哀楽をともに感じている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話など常日頃から、利用者の状況を家族に報告し、家族と一緒に利用者を支えていく関係づくりに努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事前にアセスメントをし、入居前の本人と家族の関係をできるだけ把握し、入居後も、変わらぬ関係が保てるよう努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記に同じ		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握した上で、日々の生活が円滑の送れるよう、職員が間に入りながら、利用者同士の関わり合い作りに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後の関係は、ほとんどみられない	○	利用終了後も、利用者の事を気にかけて、家族との関係もつながらよう、面会に行くなどして、つきあいを大切にしていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる範囲で、一人ひとりの思い等に把握に努めている。また、物事の決定は、本人の思いを尊重し、難しい場合は、職員、家族と一緒に考え決定している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のインテーク、アセスメントにおいて、本人の情報収集に努めサービスにいかしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々、一人ひとりの状態を把握するよう徹底し、職員会議でのカンファレンス等で、現状を話し合い、再確認している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成後、家族に介護計画の説明はしているが、事前の話し合いはしていない	○	計画作成に伴い、家族の考えを理解するためにも、事前の話し合いの場を設けるようにしたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間中、見直しの必要があっても、家族との話し合いに機会が持たず、計画の変更のできていない	○	利用者の状態、変化に合わせた、介護計画の変更を行う必要があり、それに伴った、家族との話し合いも、きちんと行っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を誰が見てもわかるように、記入方法を統一し、記録とは別に、介護日誌と送りノートを使用し、全職員が情報を共有できる体制を作り、実践につなげている	○	実践に生かすだけでなく、ケアマネを通し、介護計画見直しに生かしたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2つのホームを運営しているが、ほとんど関わりがない	○	多機能性を利用し、ホーム同士の関係を深め、利用者の要望に合った支援への取り組みをしたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの利用など、必要な地域資源との、連携を整え、対応している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が他のサービス利用を必要としている場合は、他のケアマネジャーとの話し合い、相談をし、サービス利用に向けての支援をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在、地域包括支援センターとの関わりが浅く、協働はできていない	○	普段はあまり関わりがないが、今後は、ケアマネジャーを通して、必要時に応じて、協働したい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、毎日利用者の状態を伝え、連絡を取り合い、密な関係を作り、本人や家族の希望に合った支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医と協定を結んでいるため、必要に応じて相談したり、往診や受診がスムーズにできる体制を整えている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が配置になり、まだ日が浅いため、地域医療との連携を深める努力はしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院にむけて、利用者の状態を把握するため、こまめに病院に面会に行き、病院側との連携をとる体制を整えている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医との連携はとれているが、本人や家族とは、状態が変化してからの話し合いはできているが、早い段階からの話し合いができていない	○	方針を共有するためにも、早い段階での話し合いの場を、設けるように努めたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの「できる事、できない事」をチームで話し合い、しっかり見極め、利用者の身体状況によっては、かかりつけ医から他の医療機関を紹介して頂くなどの、対応をしている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に話し合いの場を必ず設け、情報交換をした上で、ダメージを防ぐ為の方法を考え、本人に合った対応を心がけている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族了承の元、個人情報の取り扱いはしているが、プライバシーを守るため、情報内容の保管も統一した対応で徹底し、職員教育にも力をいれている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	物事の決定権は、できるだけ本人にさせていただけるよう説明をし、希望にそうように努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを把握した上で、できるだけ本人のペースにそった支援をしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望時には、化粧やマニキュアを塗ったりと、ホームに化粧品をそろえてある。散髪は月に1回地域の理容店の方に来ていただき、希望者のみ、好きなカットをお願いすることができる	○ 利用者が希望する、理容店等へ行く為の体制が、職員不足によりできていないので、希望に添えるような体制を整えたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作業は利用者と職員が一緒になって、台所またはフロアで行っている。利用者の負担にならないよう、その時の気分や体調によって、無理強いをしないようにしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	栄養及び健康面を考慮しながら、利用者の好むものを、楽しめるようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	残存能力を見極めた上で、一人ひとりの合った方法を考え、スムーズに排泄ができるようにしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでの入浴は、本人の希望を尊重し、自由に入浴できる体制を整え、清潔の保持に努めている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、本人のペースに合ったタイミングで、休んでいただくようにしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握した上で、日中の活動の中に、趣味や役割を取り入れている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は、家族了承の上、お金を所持している。また、管理が困難な方には、買い物など、必要に応じてお金を渡し、使えるようにしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人が希望時に、戸外にできることは可能だが、必ず職員の付き添いが必要のため、職員不足により、希望の添った支援ができていないのが現状である	○	少しでも、希望の添った支援ができるよう、職員の確保に力を入れ体制を整えたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人のADLの応じて、できる範囲のなかで、家族と協力をして、外出支援を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望する時は、電話をかけたり、手紙を出したりと、支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるよう、特に面会時間の制限をしていない、また、訪問中はゆっくり過ごしていただけるよう、お茶やお菓子を出している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、身体拘束を禁止している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの立地条件から、常時施錠をしなくてはならない	○	施錠はやむを得ないが、利用者の希望時には、開錠するようにしている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で、常に声をかけあい、朝昼夕と3回申し送りをし、利用者の所在や様子を把握している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、利用者の手の届かない所の保管し、必要時に出すようにしている。また、日常生活上で使用する注意が必要な物品については、職員が常に注意を払っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃より、事故防止に努め、職員一人ひとりが、統一した取り組みを心がけている	○	事故防止にむけて、勉強会や研修の機会を増やしたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の入れ替わりが激しく、すべての職員に指導ができていない	○	全職員が緊急時の対応ができるよう、定期的に訓練や、講習を行いたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画を作成し、緊急時のすみやかな対応ができるように、体制を整えている	○	ホーム内だけでなく、地域の協力が得られるよう、話し合いの場を設けたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、契約時に家族に十分説明をし、理解を頂いた上で、抑制等はせずに、普段通りの生活を送っていただいている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝定期的にバイタル測定を行い、少しの変化も見逃さないように努め、何かしらの変化があった場合は、その日の職員で情報を共有し、状態によっては、看護師、ホーム長、各フロアリーダーに上申し、主治医や家族への連絡など、速やかに対応できるようにしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの、内服薬の説明をファイルにまとめ、全職員が情報を共有できるようにしている、また、副作用等については、看護師、ホーム長を通して、主治医に相談をしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘防止のため、食事の献立を考慮しながら、生活リハビリの中で、身体を動かす機会を増やすようにしている、また、食事以外の水分の補給も強化している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの応じた方法で、支援に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合った対応をし、状態に応じて、水分摂取量にチェックや栄養状態の確認をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居前に必ず、感染症に関する医療情報を頂いたり、場合によっては、検査をお願いしている。また、流行性の疾患は、利用者、職員共に予防接種をしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	作業前の手指洗浄、消毒はもちろんのこと、その都度、調理道具は消毒をし、夜勤帯で冷蔵庫内の食材を点検している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの場所がわかりづらい為、道路沿いに分かりやすいように、看板を設置している、また、ホーム玄関周りに、四季折々の花を植え開放的なイメージ作りをしている、玄関横に小窓を設け、外からも中の様子が窺えるようにしてある		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて暮らせるよう、共有空間の灯かりは自然灯を使用し、四季折々の花や壁飾りを設置し、家庭的な空間作りをしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、食事用のテーブルと椅子の他にソファやじゅうたんスペースを用意し、テレビも2台設置し、ニーズに合わせ、独りや仲間で過ごせるよう工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人のなじみの物、家具や生活用品を何でも持参して頂き、できるだけ自宅の環境に近づけるよう、家族にも協力して頂いている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室に温度計を設置し、2時間おきに換気をし、必要時には除湿機を置いて、状態にあった対応をしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体を通しての環境作りはしているが、個別での対応ができていない	○	金銭的な理由もあるため、家族に意向もふまえた上で、個別対応をしていきたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケアカンファレンス等において、職員が利用者一人ひとりの力を把握した上で、自立した生活に向けた支援を心がけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者が使いやすいよう工夫をし、菜園や花壇を作り、季節の野菜や花を植え、楽しんでいただいている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ケアビレッジ下田は、職員同士が認知症ケアに対し、同じ方向で前向きに、新しい知識を取り入れながら、利用者一人ひとりに合った対応をしています。また、ご家族様との関係を密にし、信頼関係を大切にしています。そして、利用者一人ひとりと共に笑い、共に支え合いながら、笑顔のある生活作りに努めています。